

第4回（仮称）台東区産業振興計画策定委員会

日時 令和6年10月29日（火）
会場 中小企業振興センター 2階会議室

文化産業観光部産業振興課

1 出席者
(14名)

委員長 懸田 豊
副委員長 伊藤 匡美

委員 田村 和義
委員 金澤 守利
委員 長堀 慶太
委員 田中 耕太郎
委員 清田 祐次
委員 伊藤 康博
(代理出席 三木氏)
委員 岡崎 健一
(代理出席 小早川氏)
委員 西島 裕樹
委員 平川 浩一
委員 関井 隆人
委員 内田 円
委員 上野 守代

2 欠席者
(1名)

委員 森本 佳直

3 事務局

文化産業観光部産業振興課

(午後2時00分 開会)

1 開 会

2 報告事項

(1) 策定委員会、庁内検討会の主な意見

○事務局

—前回策定委員会の振り返りについて説明—

3 議 題

(1) 「TAITO COMPASS ～産業振興ビジョン～」(中間のまとめ)について

○事務局

—TAITO COMPASS (中間のまとめ)のChapter1について説明—

○懸田委員長

何かご質問ありますか。

○岡崎委員代理

P8のこうありがたい未来ですが、地域資源を活かして何々をするというだけではなく、活かすために何々をするという視点もあっても良いのではないのでしょうか。例えば、おもちゃですが、最近ラジコンで遊ぶ子どもがいなくなっています。なぜなのかと聞くと、遊ぶ場所がなくなった。昔は公園でラジコンで遊ぶことができたが、今は段々遊ぶことができなくなってしまった。それで、ラジコンという産業が小さくなってしまった。おもちゃを活かすために、その前提となる周辺状況を整備していくところがあっても良いと思います。おもちゃに限らず、地域資源を活かすための考え方として、台東区の産業を発展させる視点にもなると思います。

○事務局

それを活かすために何をするのかという具体的なところは書いていません。地域資源といっても多種多様なものがあります。また、色々な事業者さんがこれを読むことを考えますと、それぞれ思い描く地域資源は違うと思っています。限定的に書いてしまうと、「自分が思っている地域資源はこれにあたらぬ」と思われてしまうのは、少し違うと思います。誰が読んでも「こうなるためにはこうした方が良いのだ」という風に考えてもらうきっかけになればと思います。

○伊藤副委員長

区が出す文章は、公用文の範疇だと思います。例えば、「活かす」。文化庁が出しているものによると「生かす」でないとダメ。「想い」は「思い」にしないといけない。このビジョンは、適応されるものですか。

○事務局

公文書ですので、何らかのものに基づいて、言葉も選びたいと思います。一方で、「おもい」の言葉は、思い、想い、おもいと3種類あり、使っている場面により使い分けています。どのように整理するかは、最終的に調整させていただければと思います。

○懸田委員長

このビジョンをまとめるにあたり、過去の計画と全く違う発想で作りたいということからスタートしているので、これまでとは違う文字が出てくるのかなと思います。そのあたりの理解を得られるのかは、ご確認いただいているのですか。

○事務局

P6～7の記載内容について、こうした言葉で作っていくことについては、内部の決定、議会でも報告させていただいています。そういう意味では、内部の意思決定を踏まえて進めています。

○西島委員

公用文にも色々と分類があり、法令、通知、記録・公開資料、解説・広報とあります。そういう意味では、法令や通知文とは少し異なる性質のもので。

構成については非常にわかりやすいと思います。最初に結論、見せたいものがあるのは非常に良いという感想です。

質問があります。Actionの未来へのステップのところ、例があるものとないものがあります。書いてある、ないの統一的な考えはありますか。

また、Action③のこうありたい未来のところ、「続けていくためには、変えるところは変えて、変えていけないところは変えない。時代に合わせていく。」そういう視点もあると思います。産業の活性化の視点が入ると良いのではないのでしょうか。

○事務局

例があるもの、ないものは、例があるものは補足的なものを書かせてもらっています。P14では、例は載せていません。ここは、補足しなくてもわかるという考えで、あえて省かせていただきました。例がある、ないで疑問があるというご指摘だったので、あらためて整理させていただきたいと思います。

伝統工芸のところ、産業の活性化という視点ですが、書きぶりについては調整したいと思います。

○長堀委員

この冊子ができた際に、どのように事業者に告知していきますか。これを読んで興味を持ったひとたちが、どのような形で区にアプローチをするのですか。会社から問い合わせがあった場合、どうすれば良いですか。

また、これを作った効果測定をどのようにしますか。

○事務局

どのように伝えていくかについては、事業者の方に知ってもらうことが第一歩だと考えています。冊子として作り、広報誌を通じて周知したり、ホームページに載せるほか、これからの依頼になりますが、区内に色々ある団体の方々に周知に関してご協力いただきたいと考えています。また、区の事業実施時に、簡素化した概要版を使って周知を図りたいと思います。その際、どんな相談やサービスを受けられるのかという情報も一緒に周知することを考えています。

区側からの一方的な情報発信だけではなく、団体の定例会のようなところに、区の職員がお邪魔させていただき、告知プラス直接意見をいただける場を数多く設けたいと考えています。

効果測定については、資料編のところであらためてご説明させていただきます。

○懸田委員長

区内の事業者に読んでほしいというところから、仕掛け、工夫をなさっているのですから、出来上がったものがいくら素晴らしいものでも、現実に読んでもらわないと困ります。是非、やっていただきたいと思います。

○田中委員

Action ページに「たいとうく産の“いい感じ”」というのがでてきますが、例えば、台東区産でないものをたくさん売っている方もいます。そういう方々が、自分のことではないと感じないのかなと思いました。

○事務局

P4～5に示させていただいておりますが、それぞれの事業者の“いい感じ”がうまれ、ひろがり、たくさんの“いい感じ”にあふれている状態を示す言葉としています。それぞれの事業者が考える“いい感じ”が台東区から生まれている状態というのを表現したいと思いました。「ウチのは台東区産ではないのだけど」という勘違いが生ま

れないように、しっかりと考え方を、イラスト等で補足したいと思います。

○田中委員

英語でいうと、どういう表現になりますか。

○事務局

Well-being とイメージしています。

○清田委員

Action の右側に事例・コラムがあります。既に良い事例があれば、それを載せれば良いと思いますが、こうありたい未来で予想されるような、こうあった方が良いなどというような事例も載せるのですか。

○事務局

事例については、調整しているところです。未来のステップに記載している内容を、既に実践している方たちの取組が載ると良いと考えています。さらにその先の描く未来があれば、そこまで記載したいと思います。

事業者や団体の取組で、未来まで見据えているのであれば、その想いを記載することはあると思います。全てにおいて、その先を見据えられていないパターンもあると思います。ただし、その取組が良いもので、良い効果が生まれているものについては、載せていきたいと思っています。

○懸田委員長

事例・コラムが一つも出ていないので、我々委員も大変不安。画期的で、文字が少ないビジョンで素晴らしいと思いますが、事例・コラムが左側の Action を説明するものなのかどうかを、慎重に選んでいただき、皆さまのお知恵をいただくことが大切だと思います。左側のことを詳しく知ろうと思ったら、右側の事例を読むと思います。そのあたり、よく吟味していただきたいと思っています。

○伊藤副委員長

右側は、台東区だけの事例だけで良いのでしょうか。こうありたい未来にあてはまる事例が既にあれば、このようなビジョンは知らない訳で、ないから、こうありたい未来や未来へのステップがあるのではないのでしょうか。そうであれば、台東区にこだわらなくても良いのではないかと思います。例えば、イタリアでは伝統工芸はこうしていますよとか。そういうのも入れても良いのではないのでしょうか。

○事務局

未来のかたちの中でも、すごく良い取組だけれどもまだ広がっていないとか、もっとこういう取り組みがたくさん生まれてくると良いとか、というものを事例として想定しています。

○懸田委員長

台東区産にこだわらないということですか。

○事務局

できれば台東区産にこだわりたいと思います。

○懸田委員長

続きまして、Chapter 2、3について、説明をお願いします。

○事務局

—Chapter 2、3、資料編について説明—

○懸田委員長

何かご意見ありますか。

○岡崎委員代理

P31の「脱炭素化・GX・CNの社会的要求の高まり」を受けて、台東区の事業者さんがどういうアクションを取るのかということで、P8から読み返してみましたが、どこが対になっているのでしょうか。

○事務局

P22のAction⑧「時代の変化に適応する」の中で、例えば、未来へのステップの2番目、「持続可能な社会の実現に向けて企業に求められることに対応する。」で受けている形になります。

○岡崎委員代理

台東区さんでは、環境基本計画を令和6年3月に策定しています。それがズバリ、ここのところだと思います。温室効果ガス削減目標が、2030年までに平成25年比で42%減、2050年までにゼロカーボンシティを実現するとのこと。これに向けて事業者は何をすれば良いのか。それを示すコンパスだとしたら、今の記載ではわからないと思いました。

○事務局

環境基本計画が掲げる目標値を達成するための具体策は、可能な限りそういうところが見えるように事例・コラムや周知の段階で工夫したいと思っています。実はAction⑧も「時代の変化に適應する」という表現にあるとおり、色々な変化がこの10年であると思います。その1つとして、脱炭素の話を入れています。どこまで一つのテーマにフォーカスして、事例・コラムを書けるかというのは、調整させていただければと思います。

○岡崎委員代理

カーボンニュートラルや脱炭素化というのは、決して狭義のテーマではないと思います。非常に広く関わる話だと思いますので、よろしくお願いします。

○上野委員

補足をさせていただきます。23区の区長会でゼロカーボンシティを達成するというところで進めています。それに向けた中小企業への支援を始めようとしているところです。できあがったパンフレットを持って、企業さんに行くということを前面に押し出して、今回はやろうとしています。その際に、最新の支援情報・メニューをご用意して、宣伝に行きます。また、外郭団体として私どもが持っている台東区の中小企業振興センターに来ていただく。そのための宣伝の道具としても使いたいと思います。その中で、様々な社会経済の変化に対応していくというのを入れ込んでいけたらと思います。

○懸田委員長

P40に「持続可能な開発目標(SDGs)の理念に基づく区の姿勢」とあり、目標9と書いていますが、よくわかりません。

○事務局

17の目標をSDGsで掲げていますが、そのうち産業分野では目標8と目標9が深く関係しますということを記載しています。

○懸田委員長

SDGsの全体が出ていないので、読んだ人が理解できないと思います。初めて読む方は、何のことかわからないと思います。その点、気を付けていただきたいと思います。

○伊藤委員代理

P39の「区内産業の現在地の把握」です。KPIやKGI等の目標設定しないことは理解しました。途中経過を、経済センサスや区が実施する実態調査等で、事業所数や付加価値額、労働生産性等で分析して、スタートと5年後、10年後どうなっているのかを表していくということでしょうか。そもそもですが、10年後、事業所数も増えて、付加価値額が増えて、ということでOKという認識でよろしいでしょうか。

○事務局

成長でいえば、付加価値額が全体として上がっていることが理想だと思いますし、事業所数も、区内産業の活力を考えたときには、減るよりも増えた方が良く考えています

○伊藤委員代理

私もそう思います。P5に「ここは、事業者の本気の想いが、集まり、つながり、にぎわい、事業者も訪れる人も、誰もが心が動きワクワクするまち！」とあり、P39で現状把握ということだと思いますが、訪れた人がどうだったのか。満足したのか。伝統工芸の認知度が上がったとか。こういうことも、途中で検証して、改善していくことが望ましいかなと思います。

○事務局

訪れる人へのアンケートに関しては、少し狭くなりますが、例えば、観光マーケティング調査で観光客の視点での統計は取っています。ただ、ここに含まれている言葉については、観光目的はなく、飲食店に來たりとか、お気に入りの店に買い物に來るような方たちも想定されるので、そういった視点まで精緻に取れるかという点、現在、そうした調査項目は持ち合わせていません。色々な視点で、各種事業の中で取れる数値については、ここで例示として挙げているもの以外でも、必要に応じて整理していく必要があると思います。

○西島委員

P39の「区内産業の現在地の把握」です。TAITO COMPASSを策定して、PRして終了ではなく、そこがスタートだと思います。コンパスで示した方向性をもとに、各種施策を展開されて、事業者さんと一緒に産業振興につなげていくところだと思います。特定のKPIを設定しないとしても、定期的に「区内産業の現在地の把握」をして、プロセスを見直していく。それをしていく体制、どういう形で見直していくのか。見直しつつ、毎年の支援策の予算要求にどうつなげていくのか。東京都も中小企業振興ビジョンを作りまして、ビジョンの進行管理にご意見をいただくために、有識者会議を毎年開催しています。そのあたりを考えてほしいと思います。

○事務局

台東区でも、有識者や団体の方に集まっていただく会議体を立ち上げて、毎年、進捗管理をしていきたいと考えています。また、各事業でPDCAをまわして、かつOODAループでしっかりと改善していく。そこは短いサイクルでしっかりやっていかなければいけないと思います。

○長堀委員

活動に関わる予算はどのくらいありますか。

○事務局

産業の枠はこれくらいです、という決め方は特にしていません。各種事業で、必要なものを予算づけしていくということでやっています。

○長堀委員

プロジェクトそのものに予算はなくて、個別であるということですか。

○事務局

そうです。個別の必要性があるものに予算がついていきます。

○懸田委員長

何かあれば、事務局へご連絡をお願いします。

本日の議題はここまででございます。その他に何かありますか。

○事務局

本日皆さまからいただいたご意見を踏まえた中間まとめの修正は、委員長、副委員長と調整させていただきまとめますので、一任していただければ幸いです。

修正した中間のまとめを12月の台東区議会で報告します。また、委員の皆様にもメールにてご覧いただくことを予定しています。12月中旬から1月上旬にかけてパブリックコメントを実施した上で、1月23日に第5回の策定委員会を予定しています。第5回で、現在作成中のイラスト、事例・コラム等を含めて、委員の皆さまにお示ししたいと思います。

○懸田委員長

事例・コラムが全く示されていない段階で、委員長、副委員長に任せるよ、とはいえないと思います。事例・コラムがわかった段階で、皆さんにお知らせいただき、ご

意見をいただくようにしていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○事務局

事例・コラムについては、第5回の委員会では最終版をご確認いただくところになりますので、できる限りその前に共有できるように鋭意調整してまいります。

○懸田委員長

それでは、第4回策定委員会を終了します。ありがとうございました。

4 閉会

(午後3時20分 閉会)